

# BRIDGE Across Asia Conference 2024

**-Face Myself, Know Others, Meet the New World-**



## 実施報告書



## はじめに

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU: Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO）は、ユネスコの基本理念に基づき、多様な文化が尊重される平和で持続可能な社会の実現に資するため、アジア太平洋の人々と協働し、文化と教育の分野において地域協力・交流活動を推進しています。

ACCU では、国際社会や地域社会に主体的に貢献できる人材を育成することを目的として、青少年の国際交流・グローバルリーダー育成事業に取り組んでまいりました。2020 年にはモンゴルユネスコ国内委員会のご協力の下、新たなプログラムを開始し、高校生同士の交流会、モンゴルで開催された模擬国連大会 Model UNESCO Mongolia へ参加しました。2021 年には参加者の地域をさらに拡大し、日本を含むアジア太平洋地域 5 か国の高校生 32 名が参加して、交流と活動を深める BRIDGE Across Asia Conference が実現しました。2022 年以降は、より多角的な視点で高校生に学びの機会を提供することを目的として新たに「自分と向き合う、他者を知る、世界に出会う」をコンセプトにプログラムを実施してまいりました。

2024 年度のプログラムにおいて、参加者は異なるバックグラウンドを持つ他者と対話を深め、将来を担う世代として必要な「答えのない問いを考え抜く力」、「地球規模課題への理解力」と「問題解決能力」を培い、「多様性への寛容性」と「将来へのモチベーション」を高めました。この経験が参加されたすべてのの方の成長のきっかけとなり、将来にわたる各国の相互理解と友好の一助となることを心から願います。

最後に、本プログラムに多大なご支援とご協力をいただきましたモンゴルユネスコ国内委員会、韓国ユネスコ国内委員会、タイユネスコ国内委員会、インド環境教育センター、神戸市外国語大学、諸橋淳様、マッキー・ショーン・イアン様、ご協賛をいただいた企業・法人をはじめとした関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



2025 年 3 月

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

# 目次

はじめに

1. プログラム概要 .....	1
2. 2024 年度参加者の声 .....	3
3. 参加者のその後 .....	23
4. プログラム協力機関・協賛企業 .....	25
5. 資料編 .....	26

# 1. プログラム概要

BRIDGE Across Asia Conference 2024 では、日本、韓国、インド、タイ、モンゴルの5か国の多様なバックグラウンドを持つ計 56 名の高校生が集い、共に学び合うことで「自己・他者・社会」への理解を深める国際協働学習を行った。本プログラムでは先行きが不透明な時代を生き抜くために必要な資質と能力を養うことを目的とし、対話型ワークショップや「世界遺産の保護」をテーマとした Model UNESCO を実施した。

## 1. プログラムの目標

昨今のコロナ禍や国家間の対立など不寛容性が蔓延する世界において、将来を担う高校生がこの時代を生き抜くために必要な 4 つの能力・資質を育むことを目標とした。

### ① 考え抜く力

多様なバックグラウンドを持つ参加者同士で明確な答えのない問いを考える

### ② 地球規模課題に対しての探求心と問題解決能力

地球規模課題解決のために必要な問題解決能力・問いを立てる能力・表現力・他者との協働能力を育む

### ③ 寛容性

対話によって他者を深く理解・共感し、多様性に対する理解と寛容性を養う

### ④ モチベーション向上

プログラムでの気づきと学びを将来のさらなる学びや行動に繋げる



## 2. プログラム活動内容

### プログラム公式言語: 英語

### 1. 開会式・交流会

8 月 1 日(木) 13:30~17:30

- ・プログラム全体概要説明
- ・各国の代表者による文化や地域紹介
- ・Model UNESCO の説明とペア発表及び交流



参加者による各国の文化紹介

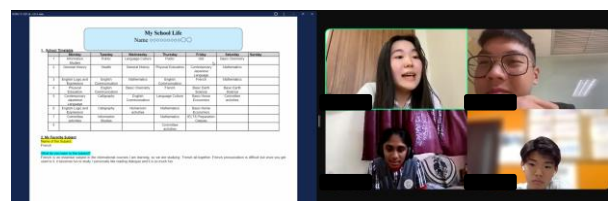
### 2. 対話型ワークショップ(全 3 回)

明確な正解のない様々な問いを共に考え、他者との対話を通じて「自己・他者・社会」への理解を深めることを目的とした。

#### 第 1 回 ワークショップ

8 月 2 日(金) 14:30~17:30

- ・グループディスカッション①(教育): 参加者が自分の時間割を持ち寄り、学校生活について対話
- ・グループディスカッション②(文化): テーマ「世界遺産保護」に関連し、「自分の大切なもの」、「世界遺産登録がもたらす意味」について対話



各国の時間割を比較

## 第2回 ワークショップ

8月5日(月) 14:30~17:00

・ゲストスピーカーによる講義: 教育、文化遺産について  
(キャリア教育含む)

講義①: ACCU 奈良事務所 国際協力課

課長 ショーン・イアン・マッキー氏

講義②: ユネスコ本部

持続可能な開発のための教育(ESD)課

課長 諸橋淳氏

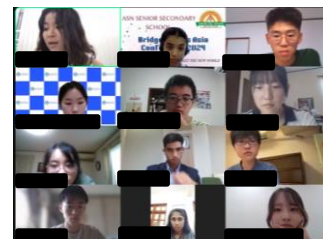
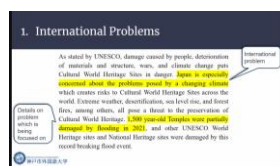


## 第3回 ワークショップ

8月6日(火) 14:30~17:00

・Model UNESCO の概要説明

・体験セッション: テーマ「アジア太平洋地域における  
高等学校教育の向上」

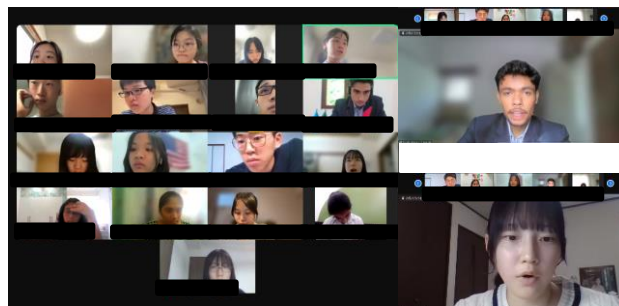


## 3. Model UNESCO

9月8日(日) 12:00~19:00

・Model UNESCO: 実際の UNESCO の国際会議を  
模し、参加者が各国の大使となって「世界遺産の保護」  
をテーマに議論

※神戸市外国語大学の学生によるファシリテーション



## 4. 閉会式・リフレクション(振り返り)

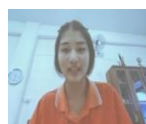
9月14日(土) 13:00~15:30

・プログラムでの気づき・学びを共有:

活動成果と自身の成長を改めて認識し、プログラム終了  
後の活動へのモチベーションを高めた

・日本の参加者: 東京会場から参加

・海外の参加者: オンライン参加



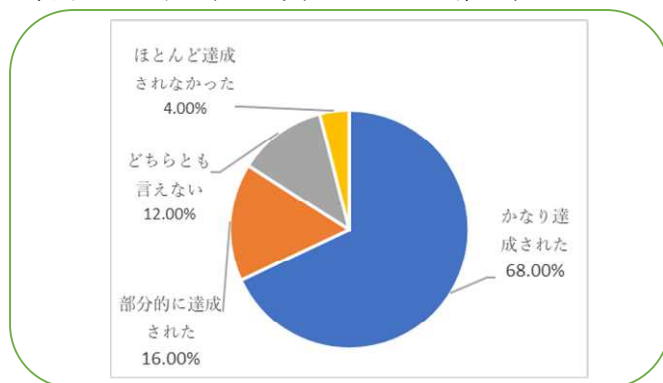
## 2. 2024 年度参加者の声

### 1. 参加者へのアンケート結果抜粋

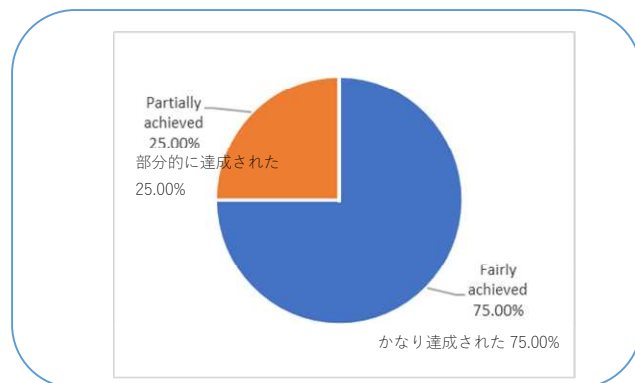
#### ○参加者がプログラムで達成したこと

5カ国からの参加者同士の対話と協働学習により、「外国の文化、生活など異文化への理解を深める」、「他国の高校生と協調して取り組む力を身に付ける」、「自分自身の課題や強みを認識する」が、日本の参加者、海外の参加者ともに特に達成された。

#### ・外国の文化、生活など異文化への理解を深める

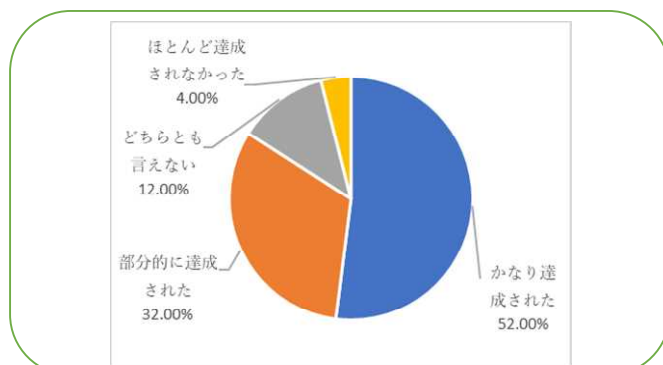


日本の参加者

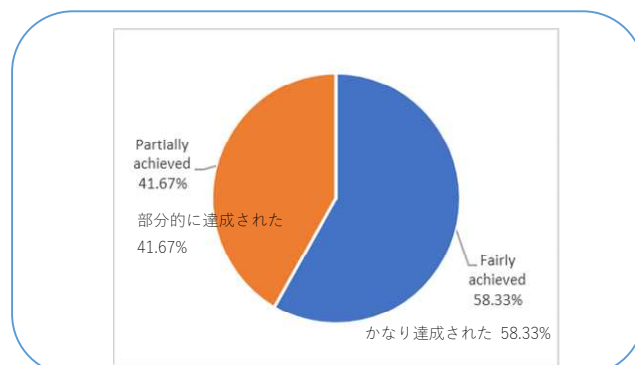


海外の参加者

#### ・他国の高校生と協調して取り組む力を身に付ける

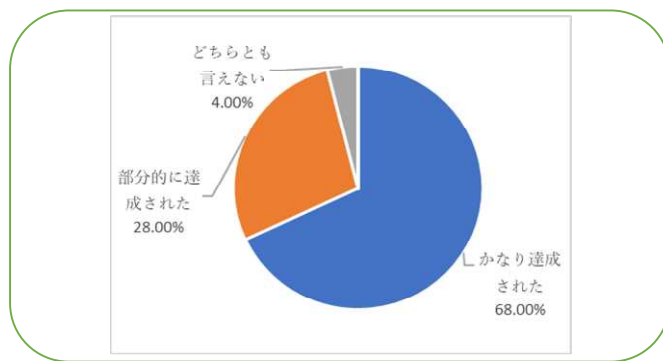


日本の参加者

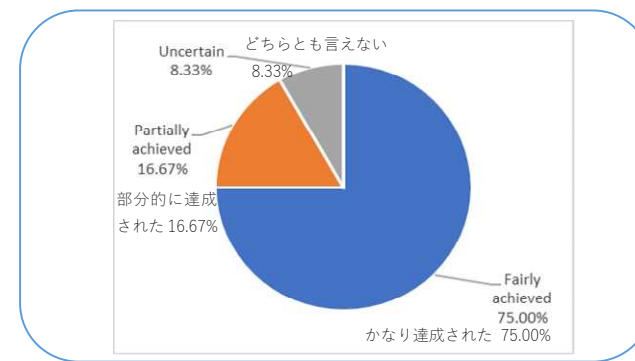


海外の参加者

#### ・自分自身の課題や強みを認識する



日本の参加者



海外の参加者

評価段階 (日本語): かなり達成された/部分的に達成された/どちらとも言えない/ほとんど達成されなかった/全く達成されなかった

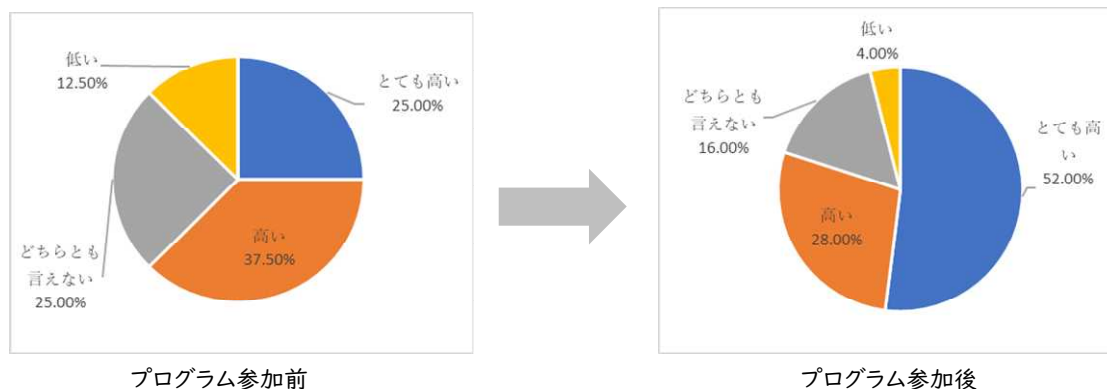
評価段階 (英語): Fairly achieved/Partially achieved/Uncertain/Mostly not achieved/Not achieved at all



## ○日本の参加者のプログラム参加前後の変化

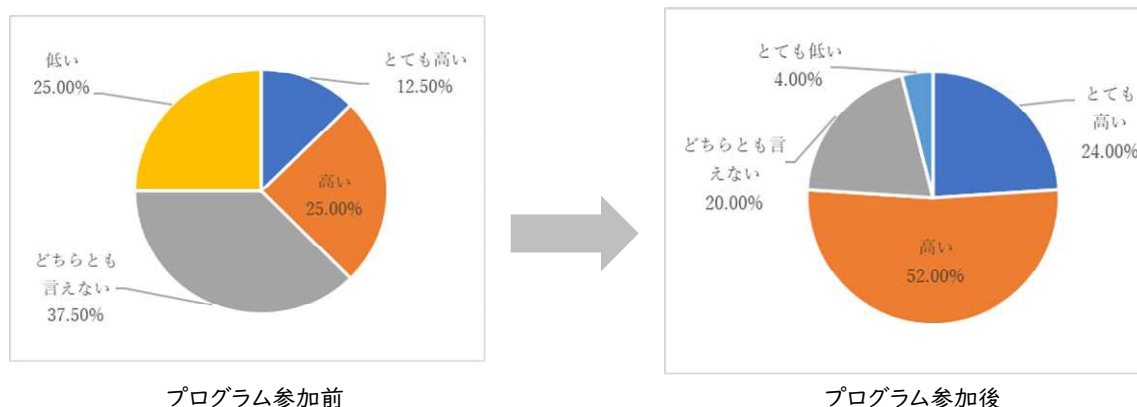
プログラム参加前と参加後の自身の変化を尋ねた。その結果、特に自分自身に対する理解、地球規模課題・社会問題に関する理解、問題把握、解決能力がプログラムを通じて大いに培われたことが明らかになった。

### ① 自分自身(自分はどのような人間か・何に興味があるのか・何をしたいのか)に対する理解

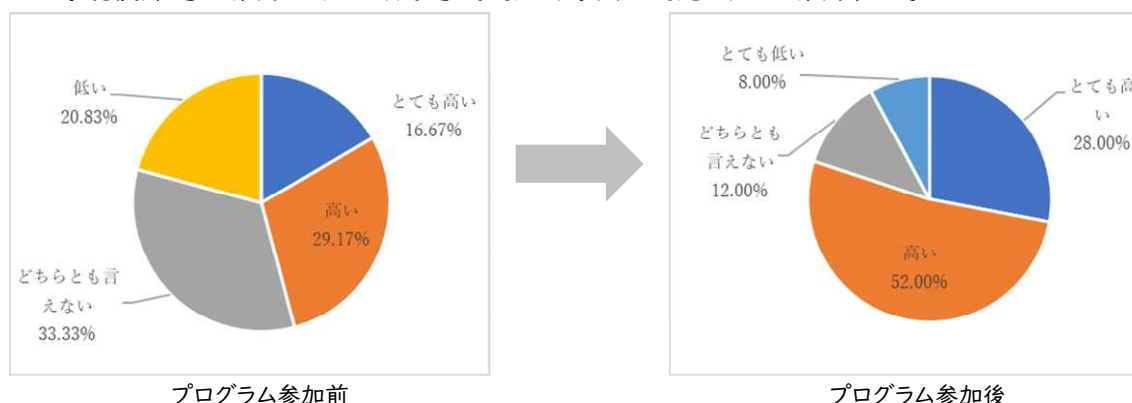


⇒参加前は、自分自身に対しての理解が「とても高い」、「高い」生徒が合計 62.50%であったのに対し、参加後は、80.00%と高くなっている。また、「とても高い」生徒は 25%から 52%に倍増した。プログラムが自分自身と向き合うきっかけとなったことが分かる。

### ② 地球規模課題・社会問題に関する理解



### ③ 地球規模課題の解決に向けて、問題を把握し、原因を追究し、また解決策を考えることができる




⇒地球規模課題・社会問題に対する理解度が「とても高い」、「高い」生徒はプログラム前後で合計 37.5%から 76.00%と大きく増加した。また課題に対する問題把握、解決能力についても「とても高い」、「高い」生徒が 45.84%から 80.00%と高くなった。プログラムを通じて地球規模課題・社会問題に関する理解、問題把握、解決能力が大きく養われたことが分かる。


評価段階: とても高い/高い/どちらとも言えない/低い/とても低い




## ○プログラム全体に対する感想

M.S.さん(日本) 


他国の方とインスタを交換し、仲良く話せるくらいに関係が築けると思わなかったです。先を見据える力、意見を伝え切ろうとする積極性、全て書類が英語だからこその読解力、様々な課題を経てプログラムに望みたいという強い意志と行動力、色んな国の方と接したり、考えを聞いたりすることで幅広い視野を養うことができました。また、世界の現状について興味を持ち、またその解決の一員になりたいと思うようになりました。自分と向き合うことで自分の長所と短所、また補うべきものを見つけることが出来ました。

S.K.さん(日本) 


いままで関わることのなかった国の高校生たちと関わる事ができたことは、その国に対して興味を持ち、より理解できることに繋がりました。今回のプログラムでモンゴルの参加者とペアになり、活動を進めていくうちに、その子のことを知るためにモンゴルについて調べたり、直接会話したりして、仲良くなっていくうちに自然とモンゴルのイメージがつくようになり、もっと知りたいと思う気持ちも促進されていました。いままで無知であったものが理解に変わるという私にとって素晴らしい機会を作ってくださったことにとても感謝しています。

Y.J.さん(韓国) 


海外の高校生とコミュニケーションを取り、各国の文化と価値を学ぶことができました。ゲストスピーカーのお話やモデルユネスコの活動からエシカルな地球市民としての経験をさらに広げることができました。

A. A.さん(モンゴル) 

このプログラムは様々な背景を持つ人々と交流する貴重な機会を与えてくれ、異文化への敬意と理解をより深めることができました。様々な国からの参加者がいるおかげで、活発に考えを共有し、協働することができました。将来のプロジェクトやキャリアにおいても有益なネットワーク構築につながったと思います。

V. N.さん(タイ) 

英語力を高めることができただけでなく、グローバルコミュニティーの一員となることの重要性に気づきました。様々な国の文化や教育システムを学び、新たな友人たちと共に学ぶ機会を得ることができました。

P. G.さん(インド) 

様々な国の高校生がこのように明るく優しく協力的で、知識のある人たちだとは想像していませんでした。コミュニケーション能力の向上に加え、将来に役立つ多くの文化的な知識を得ることができました。

## ○プログラムの成果

上記のアンケート調査をもとに、プログラムが達成した成果として下記の4点が挙げられる。

### 1. 考え抜く力の向上 →プログラム目標①

5カ国の参加者の多様な意見、視点に接し、視野を大きく広げた。また言語や文化の壁に臆せず、粘り強く対話し、考える力を養うことができた。

### 2. 地球規模課題に対しての探求心と問題解決能力の向上 →プログラム目標②

グループディスカッションや協働学習を通じて、世界各国共通する課題に対して関心と理解を深め、その解決に地球市民の一員として取り組もうとする意識が生まれた。

### 3. 寛容性の高まり →プログラム目標③

世界の高校生と交流する中で異なる文化、価値観を理解し、お互いへの敬意を高めることができた。

### 4. モチベーション向上 →プログラム目標④

同世代の世界の仲間から刺激を受け、自分自身の強みと課題に向き合い、将来に向けて決意を新たにすることができた。

## 2. プログラム参加者による最終レポート

### Final Report

K. I.

Through this program, I've learned a lot of what to do in the national community. First, I've been to Canada for 10 months, so I didn't have any embarrassment to talk with foreign countries people, but I worried about the difference of accent and how difficult to communicate with Asian people. Because I didn't get any Asian friends there so communicating with native Asian was first time for me. However, every person had good accent and even if I couldn't catch it, some people helped me to recognize it.

As a second, BRIDGE Across Asia Conference gave us such a good opportunity to think about what happened in the world and how each countries live their lives. I have had no idea for any World Heritage before participating this program but finally, even I couldn't join the MUN, I was able to make occasion to know them. Also, introducing each country, which we had as a first activity made us consider about each country which Japan, Thailand, Korea, India and Mongol.

Anyways, this activity was great opportunity for every participant to know and consider what happened in this world and in each country. Not to forget what we did through this program, we definitely need keep and touch with each other.

### BRIDGE towards the Future

T. Y.

From July to September 2024, I joined the BRIDGE Across Asia Conference, organized by Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO. The conference brought together students from different countries in Asia to talk about important global issues and learn from each other. It was a great experience that helped me understand more about how countries can work together for a better future.

#### Model UNESCO: Working Together

One of the main activities of the conference was the Model UNESCO. In this activity, I represented Egypt along with my Indian buddy. Together, we discussed global topics like climate change and overtourism through world heritage sites. It was interesting to see how different countries have different views, but we all want to solve the same problems.

#### Learning from My Indian Buddy

The conference also gave me a chance to spend time with my Indian buddy. We talked about our cultures, schools, and how our countries protect precious ruins. This exchange helped me learn a lot about India, and I found it really inspiring to hear about ideas.

Our conversations made me realize how important it is to build friendships with people from other countries. It's through these connections that we can better understand each other and work together.

#### Building Bridges for the Future

The title of the conference, "BRIDGE Across Asia," made me think about how education and cooperation can help us create a better world. By sharing ideas and working together, we are building bridges that connect not just Asia but the whole world.

Through this experience, I realized again how strong my dream of becoming a diplomat is. I learned how exciting it is to connect people and countries that may never meet. I also learned how important it is to connect Asia with Japan, and ultimately connect everything to the future. I want to work hard so that I can proudly say this event was the first step towards my dream.

## **Many People All Over the World**

**A. T.**

It's 550 km between Wakayama and Tokyo. Moreover, it is more than 5000 km from Tokyo to India. It is very difficult for me to meet friends there. However, this program made that real. I think this is a good opportunity for me. I have a dream to provide people around the world with laughter and information.

That means I would like to be a Youtuber. In fact 2 billion and 500 million people use YouTube. That's why I think this is the best medium of doing. In order to achieve my goal, I need knowledge that I learned in this program. For example, in this program, we learned about Kenya. Kenya has a serious environmental problem. Also, we need to speak in not only English, but other languages. Because of this, I was inspired by many things in this program, and it might be a small first step for me because I aspire to contribute to the world. I was able to brush up my English skill. In particular, my listening skill will improve greatly.

In this program, I learned many things such as differences between Japan and other countries such as culture and school lives. However I realized the core of us is similar to all participants. We tend to find the differences around people, and we are trying to accept various ideas, but from this program, I realized that we are little different on the surface, but we are almost the same inside, so I want to be conscious of it.

## **Final Report**

**T. H.**

Participating in this event made me realise my poor communication skills and lack of knowledge. During group activities, when discussions did not go well, I sometimes kept silent or left things to others. On the contrary, I was impressed by the way people from other countries actively took the lead and tried to advance the discussion. I am interested in South Korea and want to improve the current relationship between Japan and South Korea. For this purpose, I am now trying to connect Japanese and Korean students online and hold exchange meetings. I would like to further develop my communication and leadership skills to make these meetings even better.

## **BRIDGING a World Together: Lessons Learned from BRIDGE Across Asia**

**R.O.**

Before participating in this program, I never thought that interacting with others would be so hard. Not only the communication aspect but also in terms of understanding the opinions of people from other countries was very difficult.

I had never travelled abroad except for travel or short-term study abroad and I, who started to join the international courses this year (first year of high school), their backgrounds were very inspiring. They spoke multiple languages, had fluent English and a rich vocabulary, and they were good at understanding and empathizing with the opinions of others. They all seemed so vivid and felt that their existence was very far away from me.

I participated with the determination to "make the most of this program and use it in the future!" but on the first day I gave up and became timid. Even though I tried to follow the discussion somehow, I could only do my best to understand, and even when I was asked for my opinion, I wasn't even sure if what I was hearing was correct. Even in such a situation, they accepted me and listened to my opinion.

This wonderful experience will remain in my memory, now and forever. Thank you BRIDGE Across Asia Conference 2024.

## **“My New Exchange”**

**N. M.**

Interacting with Asian students has become a wonderful memory and my treasure. Originally, I was interested in cross-cultural understanding. However, the interest became deeper. It was an opportunity to learn more about different cultures that I didn't know. In addition, it was also an opportunity to learn about language. I will face my own language ability and use it in my future studies. I would like to acquire a broad perspective and actively participate in opportunities for interaction in the future.

Thank you very much for this program.

## **My Study**

**K. T.**

I have a big dream. It is to bring courage and hope to people around the world. I would like to become a member of Doctors Without Borders in the future. There are many problems in the world today, such as war, poverty, inequality, discrimination. All of these problems cannot be solved without the cooperation of people all over the world. I joined this program in order to cooperate with people from all over the world, to understand each other, and to share ideas.

I was very excited when I met the participants from overseas for the first time. Some of them came from thousands of kilometers away. They have different cultures. But we were all high school students, laughing, discussing, and asking questions of each other. I realized that all human beings are brothers and sisters. I felt that even though we are far from each other, our hearts are connected. I thought every culture was beautiful. Then, I want to state the differences of the cultures I found along with the beauty of those. First, they introduced me to their country's culture. All of them were beautiful and interesting. I felt that every country and culture has something to be proud of. And then, I was interested in the English accents of each country. I am interested in languages, so I learned a lot. Sometimes it was difficult to understand what was being said, but everyone tried their best to understand. Yes, I learned not only about language, but also about the kindness of people! I will not forget this memory forever, and this experience will help my life.

Now, I have been studying many languages every day because I would like to communicate with people as I mentioned above. Until now, I may have been working on languages only to eliminate language barriers. However, I do not think so now. I have realized that learning a language means learning a culture, which in turn means accepting and respecting the culture of the other person. Therefore I would like to keep learning languages with respect.

Finally, I would like to thank all the ACCU coordinators and all the participants. I was happy to have such a good opportunity. Now, for the time being, I am going through a lot of hard times. But all of them are for my future dreams. I will surely become a person who can make a difference in the world. Do not forget to care and respect the other party. I want to live each and every day with care.

## **The thing I felt in this program (Final report)**

**S. T.**

It was the first time for me to interact with other high school students from Asia. I have been abroad before, but I didn't meet students of the same age there. So, participating in this program was a valuable experience and made me more interested and thoughtful about World Heritage Sites. I aimed to interact with other students in English, to make at least one friend and to improve my conversation skills in this program.

The first one is almost achieved, I think. I was so nervous when I met and talked with other students, because my speaking skill is terrible for me. But, even if I spoke my idea in English with messed up grammar, everyone tried to listen carefully. I was so happy, and I felt I should

be more confident about myself. If I have an opportunity to participate in a program like this next time, I want to practice being more confident until then. The second one is certainly achieved. In pair work I had to know about my partner and write a position paper. It was not easy, but finally we managed to write a position paper. Also, I think I should have been friendlier to other students too. However, it is a very big breakthrough for me to make at least one friend. The third one is not very successful. It is because I hesitated to speak in front of some students. In Model UNESCO, we delegated nations and had to state solutions from the perspective of our own nations. but I only stated twice. In the background I didn't have an attitude, which was trying to understand, and I couldn't listen and know the speaker's statement. It is very frustrating. If I had the courage to participate in the meeting, I could have enjoyed it more.

In conclusion, I found it was not easy to exchange ideas with each other. But this program has taught me that even if there are any barriers of language, culture, age and so on, we should have an attitude of respect for whomever we are interacting with. I was lucky to participate in this program. And, in my future, I want to be a person who respects others and contributes to my country.

### **Final Report**

**M. S.**

I could have a wide view through the activity. For example, I could know what the problems are in the world and how we should approach them. It was a good experience because I didn't have much opportunity to think about problems existed in the world. So there was a new discovery that I'm good at thinking about things from a different side. And I could make new friends from other countries. I'm fun because I can know their life and feeling difference with Japan by exchanging SNS.

I think that I want to be a grand staff who can speak languages other than English at the airport. So I thought that I want to more improve solving problems ability and communication skills.

### **Final Report**

**K.I.**

Realizing that I have a lot to learn was the greatest learning I earned from participating in the BAAC. The experience stimulated me to learn more to not judge things with my prejudices.

Meeting other participants made me realize that I have more prejudices than I thought. While getting to know the participants through self-introductions and discussions, I found myself feeling surprised against them when they didn't fit my stereotypes. I had a stereotype that every Indian student love science and math, so I was surprised to hear some Indian participant say that they are more interested in humanitarian subjects. Other than that, I found myself having several stereotypes against other countries. Through this program, I learned that I have prejudices even if I believe that I don't, and that I should meet more people and talk to them as individuals in order to take away my prejudices.

This program taught me that I shouldn't have prejudices against other people, but it also taught me that I shouldn't have prejudice against what I'm learning. Sometimes I feel like what I'm learning at school is useless, and I would never use them in the future. However, participants from other countries asked me about Japan, I needed to use what I learned in Japanese history and geometry, and in the model UN, there were discussions based on several fields of knowledge. In order to communicate with others and solve problems in the world, we need a wide range of knowledge, including subjects that may not seem to be useful at the moment.

I also felt the urgent need to improve my communication skills. Communication is the best way to put away prejudices. By communicating we can understand each other better, we can share what we are learning, and ultimately, we can solve problems together. However, throughout this program I often struggled with my communication skills. I wasn't sure on how I can elicit what I want to know from other participants, and I didn't know how I can support other participants who seemed like they were left out from the conversation. Surprisingly, I struggled most in communicating with other Japanese participants at the closing ceremony. I couldn't figure out how I can both be myself and adjust in the group when talking to Japanese high school students who are not from my school. With better communication skills, I feel like I could've learned more about the other participants, and cross the border of prejudice.

BAAC taught me what I need to do to take away prejudice, which is necessary in solving problems with other people. It was a great experience for me, and I am thankful to everybody who was a part of this program for letting me step out of my comfort zone.

### **Through the program**

**K. N.**

I have never been abroad before, but this program has given me a lot to think about. I was very anxious and nervous at first because it was the first time for me to speak with Asian people, plus it was in English. I talked about my own country's culture, food, etc. and asked about theirs. I also got along well with my pair of friends and we talked about the same hobbies for a long time.

When I didn't know what to do, the kids from overseas helped me. I was overwhelmed by the really high level of the Japanese participants, many of whom spoke native level English. I thought that someday I would like to speak like that.

I was surprised by the willingness of the participants from India. They expressed many opinions on their own, listened to what everyone had to say, and had the ability to summarize. There were many areas where I was helped during this program, and I am grateful for that. I was not able to speak much from the beginning and was at a loss, but I was really happy that everyone from overseas and Japan asked me questions and took an interest in me. I was able to learn a lot about the five countries through this program. I realized many things by listening to the local people directly.

At the first meeting we discussed education in each country, and I thought it was interesting that the timetable and subjects were completely different from those in Japan. Model UNESCO was a bit difficult, but I think we were all able to work together.

I am very glad that I was able to meet so many different people through this program. Thank you very much!!!

### **Experiences that expanded my world**

**S. T.**

Through this experience, I was able to broaden my own world and perspective. Through this program, I thought that Japanese high school students, including myself, are not very active. However, I was able to express my opinion little by little by interacting and discussing with people from other countries. I was also able to call my partner outside of the program hours to work on assignments. I still keep in touch with them. It was a good experience for me because it is not easy to have a cross-cultural exchange. It was also a step closer to my dream. This program focused on World Heritage, so we thought, talked, and created materials about the world's heritage in English. I was able to taste other people's ideas and cultures. I was able to experience many different things in this program. Thank you very much. Next time, I would like to stay a few nights and go on a training camp.

## **My best friends**

**F. N.**

I experienced a lot of things that will play important role through this program. And I enjoyed all. Now, I want to introduce my experience and how unknown people became my best friends.

The second of this program (the first was opening ceremony), was the first nervously point. I don't want to remember that day's work, however, I want to. At that day, we had program which representatives of each countries introduce own countries' interesting or unique or some else points. I didn't do it, but we had question time each country's introduction, so I asked to Indian representative as the first questioner there (because I was very envious that though the speakers were not separate in years same to me, I could see the distinct of ability clearly). But the accident happened. My English wasn't understood.... I was very shocked, and I thought the time we can't communicate each other was the longest one in the world. But few seconds later, a savior (of course it is mankind) came to on the conversation. It translated my English more understandable. I was very glad and I appreciated to the savior and the world. I couldn't ask a question in my skills. However, after that day, we became friends and have been keeping in touch. (I should have written the first day as the head of this report. That day was as important as the second day. I need more pages to do.)

I also became friends with foreigner. We had MODEL UNESCO as the last mission in this program. We were divided to many teams 2~3 people in it and each team had to work to the last mission as any countries' delegates. I became team of Malaysia with Indian. (maybe, I have a destiny to relate with Indian people.) To get success, we communicated a lot on Instagram. We had time different of 3hours and 30 minutes. So that we made time we could communicate and used voice message or call on the phone. Thanks to her kindness, I could speak and use English freely. There was time that I couldn't understand each other, and made her nearly angry to my attitude or English. But we could be closely through each other's culture day by day. In the MODEL UNESCO conference, I gave a speech in front of all participants in use a draft of speech which had been made by me and her. I was surprised at my different to the beginning in this program. But sorry to her, I couldn't listen to what other delegates were speaking well. and as a more terrible things, after speech of all delegates, I couldn't belong meeting in speedy English. I could only suggest one point at that time. It is the biggest regret in this program.

Reflection conference was held on online and Tokyo. I went to Tokyo and met participants from Japan including the savior. I also found new friends there. They were kindness and good at talk fanny stories. I want to maintain the relationships, and stole talking skills someday. In the conference, there was chance to make a speech in front of again. I had decided what I would speak. But I was nervous because of the word's weight. I want to remember in the future in myself so I don't write here that. (Say the truth, I nearly forgot the responsibility these days.) through this program, I enjoyed of course, but also, I found many people who were cooler, more intelligent and kindness than me. I must more consider and learn to meet such people and see the same view. I got many experiences range from sad, happy to drive me to the glow future. Thanks to my friends who became in this program, I can go straight. For me, my friends are rivals who stand next of me. I'm forgetful so I need such friends. I want to make efforts to realize the world that all people are respected with my rivals.

## **Final Report**

**H. S.**

What I learned through this program.

1. I had never been interested in World Cultural Heritage before, so there were many things I learned for the first time about the problems facing World Cultural Heritage and the efforts being made to address them.
2. The differences between the participants' cultures and ways of thinking and my own were sometimes surprising, but it was also a great learning experience.



3. The assignment was tough, to be honest, but I learned to think through problems, especially unanswerable questions, by completing it.

What I felt through this program.

1. I felt that working together with my peers is very important, because we could do better than what I had thought of on my own by creating a position paper together.
2. I realized that my English skills were lacking because I often had trouble keeping up with English presentations, speeches, and conversations.
3. I thought that simply thinking about unanswerable questions is completely meaningless, and that we must be able to put them into action and influence society.

What I have changed through this program.

1. I learned that I am still ignorant about world issues, so I started watching world news to be aware of what is happening in the world.
2. I began to study English more vigorously than ever before because I realized that my current English skills were not good enough for the world.
3. I thought that using translation software would facilitate communication, but I realized that it hindered the growth of my English skills, so I decided to limit my use of translation software and work harder to improve my English skills.

How I will apply this program to my future.

1. I was able to gain an objective view of my current situation through this program. I want to grow with a hungry spirit and become a person who can be active on a global scale, without being satisfied with my current situation.

## **Final Report**

**C. K.**

“It’s like a dream” I thought when I saw the poster of BRIDGE Across Asia conference on the blackboard in my classroom. For me, a girl loving incredible culture of Asia and wonderful Bollywood movies, the news was like a door to my new world. However, I was got to face my reality by the dream door.

Yes, If I name the first day of this event, I will name it “frustration”. In terms of English, I had some confidence which coming from paper test of English. But on the first day, I was surprised and surprised. The presentations of each country were so nice, and everyone conversed in a flowing way. Especially, I was overwhelmed by not only English but also momentum and confidence whose students from other countries. I realized I had to do something. If there is frustration, there must be “solution”. From that day, I started to practice listening to English more through listening to English radio and news.

As my thoughts became more positive, I also grew up step by step after the first program. For example, the discussion about education system was awesome and I will remember the Enjoyment and surprise first gained through conversation. Also, the speeches of guest speakers were so interesting, and I felt the world closer.

However, what impressed me most was the model UNESCO. For this preparation, I was in charge of Brazil and was paired with a Thai girl I had never spoken to before. My poor English was not good enough to communicate with them, and I was very anxious at first. However, after several meetings, the position paper was completed, and at the same time, I felt that she and I were getting closer. The Model UNESCO production went well, and I really felt the joy of collaborating with others. The pair’s work taught me that everyone has a different culture and background, which makes it difficult to interact with each other, but the stimulation and sense of accomplishment when things go well is tremendous. I was also able to look at global issues from a different perspective by being in Brazil, a country that is located in the opposite position and has the opposite background to Japan. All research was done in English, which was difficult, but I thought it was important to read articles from outside of Japan to see things from a different perspective. I would like to make use of this experience in the future.

My dream for the future is to go out into the world and in some way solve global issues from a Japanese perspective. Of course, the programs I just mentioned, including the Model UNESCO program, were helpful and gave me new perspectives, but I think the encounters I had with people were the most important source of nourishment for my dream. I have made many friends in Japan and around the world. And their energy and confidence, which I did not have in Japan, gave me the courage to take a step forward. I would like to break out of my shell and deal with the challenges I have learned through this program with confidence.

### **Unforgettable Experience**

**Y. T.**

#### **1. What I Got through BRIDGE ACROSS ASIA CONFERENCE**

During this program, the member's activities were deeply impressed on my mind. Also, I found that English is one tool we can get over the border. I felt member's tender heart through attending exchange with English. On the contrary, I recognized my poor English skills and communication skills.

#### **2. Member's Kindness**

Thanks to the member's many warm words and support, I was able to participate. In the work shop, that everyone waited for me to finish talking and answered my question politely and warmly supported me. In this time, I felt kindness. I was glad that the members replied to my English.

#### **3. Future Goals**

This program gave me the opportunity to think about future goals. I felt a need to grow my English and communication skills. I want to study the basics of English steadily so that I can make conversations with many people in the future. One day, I want to be a person who can convey the joy of talking in English to many people. I will try my best.

#### **4. Great Gratitude**

I was able to take the first step for my dream by this program because I can realize the importance of English. I repeat myself, but without support, I couldn't participate. Finally, I would like to express my gratitude to all the members who attended in this program and all ACCU's staff who gave me the support.

### **Final Report**

**H. O.**

Through this project, I learned mainly two things.

First, the importance of acting voluntarily. I was surprised that everyone discussed more voluntarily than I had expected. Especially, I was overwhelmed by students from India. Including me, students in Japan tend to be passive when compared with other countries. I felt nervous at first, because I cannot speak English so fluently and do not have courage to make mistakes. But I was moved that some students tried to speak English even if they could not come up with words. So, I ran facilitator in icebreak. However, there were some challenges. Even though I cannot speak English well, I have to amuse everyone because of icebreaker. Not only spoke own opinion in English but also I had to make icebreaker interesting. I did "Who am I game".

It is a game in which a respondent guesses who I am by everyone's advice. First, I asked "If there is anyone who wants to be a respondent." But no one answered. And there was silence for about 2 minutes. I got upset. I wanted to get over this challenge but I could not

come up with words. I thought I would be dead. But, fortunately a student in India responded and the game was successful. Until then I doubted that people can grow through mistakes. Because, we feel bad and shame and sometimes scolded. However through these projects I notice how important challenging is. Actually, when I look back at this project, icebreak is the most memorable experience. I think challenging is easy to be unforgettable. And it is the key to be interesting life. Also, people do not die by making a mistake. I believe it is better to regretting after we done something rather than regretting that I should have done that.

Second, diversity of people. There are a lot of students from different countries. And they have different backgrounds. So, it seemed to be difficult to communicate with. But everyone is kind and I learn that we can get along with each other regardless of countries. Also, the final day is memorable. I have lived in Yokohama and did not have opportunities to contact with students from other prefectures. But I could communicate with a lot of students from different prefectures on the final day. I was surprised that even though we are from different prefectures, they have different personalities and common sense. Through this project, I could feel the personality that everyone has.

Through this project I could learn a lot of things and want to make use of them in the future.

## **PROGRAMME EXPERIENCE**

### **BRIDGE ACROSS ASIA CONFERENCE 2024**

### **FACE MYSELF, KNOW OTHERS, MEET THE NEW WORLD**

H. S.

#### **1. The Programme**

I had the incredible opportunity to participate in a unique programme with high school students from across the Asia-Pacific region. The experience was a blend of interactive workshops and Model UNESCO simulations, all aimed at deepening our understanding of global issues. Through these activities, we developed crucial skills such as problem-solving, tolerance for diversity, and motivation to tackle future challenges.

#### **2. The Background**

Our world has faced numerous challenges recently—pandemics, conflicts, and general uncertainty. These global issues have made it clear that the younger generation, like us, needs to be more equipped to handle complex questions and diverse perspectives. The programme was created with this in mind, aiming to empower us to think critically and engage meaningfully with issues affecting our societies and the world at large.

#### **3. What I Learned**

The programme focused on helping us develop four key qualities:

1. **Deep and Logical Thinking:** We were encouraged to look beyond surface-level answers and think critically about complex issues. It wasn't always easy, but it helped me appreciate the depth of understanding required to address global challenges.

2. **Tolerance:** Meeting peers from different countries with diverse backgrounds was eye-opening. We engaged in discussions that highlighted our differences and similarities, which fostered a greater sense of empathy and respect for each other's viewpoints.

3. **Motivation:** The programme wasn't just about learning; it was about inspiring us to take action. The challenges we discussed and the solutions we brainstormed have motivated me to continue exploring these issues and to remain engaged in making a positive impact in the world.

4. **Global Awareness and Problem-Solving:** Through collaborative projects and debates, I gained a deeper understanding of global issues and developed better problem-solving skills. Working together with students from different countries provided fresh perspectives and innovative approaches to tackling these problems.

## The Organisers and Collaborators

This enriching experience was made possible by the Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU), in collaboration with several prestigious organisations, including Kobe City University of Foreign Studies, the Mongolian National Commission for UNESCO, the Korean National Commission for UNESCO, the Thai National Commission for UNESCO, and the Centre for Environmental Education in India. Their combined efforts created a dynamic and supportive learning environment.

Overall, the programme was an unforgettable journey that broadened my horizons and prepared me for future challenges. It was more than just an educational experience—it was a chance to connect with peers from around the world and work towards solutions for some of today's most pressing issues.

### THURSDAY, 1ST AUGUST – OPENING CEREMONY AND ORIENTATION

- A. This was the first day of the programme which was hosted by the ACCU committee.
- B. Each country was supposed to present a power point presentation representing the cultural diversity and traditions of their region. The command for this was took by a participant from Team India Miss Medha Shankar.
- C. Later after all the presentations were over we had a break and then we were introduced to the Agenda and Procedure of Model UNESCO.
- D. We then had a small exchange programme for interaction between other participants from other countries about their culture and traditions to understand them better. For which, we were divided into breakout rooms.

### FRIDAY, 2ND AUGUST – 1ST WORKSHOP FOR DIALOGUE

- A. On the second day of the session we had an Ice breaking session conducted by a Miss Medha Shankar to engage everyone in a fun activity before starting the session.
- B. Then we had a break out session discussing about the Time Table followed in our school and our favorite subject from the stream. Where we got to know many similarities and differences in our school life and subjects.
- C. After a break, we again met for discussing about the solutions of a few questions which were assigned by the UNESCO on “World Heritage Sites”

### MONDAY, 5TH AUGUST – 2ND WORKSHOP FOR DIALOGUE

- A. This was the third day of the session where we had two guest speakers –
  - Mr. Shaun Mackey - Meeting Mr. Shaun Mackey was a highlight of my programme. With 34 years in archaeology and his role as Director at ACCU in Nara, Japan, his experience is remarkable. He's worked in diverse locations like Australia, Egypt, and Thailand, and reviewed sites for the Maritime Asia Heritage Survey. Mr. Mackey's approach to archaeological field methods and his focus on understanding sites from a landscape perspective were particularly inspiring. Learning about his research on aviation traces in Southeast Asia showcased how modern technology intersects with ancient history. His insights and global experience truly motivated me and deepened my appreciation for archaeology

Ms. Jun Morohashi - Meeting Ms. Jun Morohashi was truly inspiring. She began her career with UNESCO in 1999, starting in the Social & Human Sciences Sector. Over the years, she moved to the Education Sector, where she focused on Peace, Human Rights, and Global Citizenship Education. Her journey took her to the UNESCO Port-au-Prince Office as Chief of the Education Unit, and then to Bangkok as

Head of the Executive Office & Regional Programme Coordinator at the UNESCO Asia-Pacific Regional Bureau for Education. In April 2020, Ms. Morohashi returned to UNESCO HQ to lead the Section for

Education for Sustainable Development (ESD), a role she has held since September 2022. With her impressive background and dual degrees in sociology and psychology, her career reflects a deep commitment to education and global issues. Her diverse experiences and expertise in sustainable development were both motivating and eye-opening for me.

### TUESDAY, 6TH AUGUST – 3RD WORKSHOP FOR DIALOGUE

A. This was the last day for the workshop, which included all the necessary details of the Rules and Procedures to understand Model UNESCO.

B. This session included activities to understand the working and the reflection breakout session with respective country pairs for Model UNESCO. I was partnered with a participant from Japan named Kokoro. Despite of the language and cultural barrier we communicated to work positively and progressively towards the event, our country assigned was South Africa.

C. The last event on this day was a surprise for all the participants as we all were divided into the breakout room of the same country, where Team India had a little chit chat about the backgrounds they come from and their hobbies. This was one of the best moments of the whole conference to meet all the bright and jolly faces of participants from India.

### SUNDAY, 8TH SEPTEMBER – Model UNESCO

A. The opening ceremony of the main event had the glimpses of the past meetings of the conferences, including a small video of all the activities held previously and group photos taken during the event.

B. Me and my team later worked upon writing the working papers and discussing about the problems and solutions about the World Heritage Sites.

C. We were also added in a regional bloc to understand the point of view of other countries in favour of the changes or if any, to make amendments too.

D. Our Draft Resolution was passed successfully into a Resolution.

### SATURDAY, 14TH SEPTEMBER – REFLECTION AND CLOSING CEREMONY

A. This was the final stage of the conference.

B. On this day we had to present our views and experience of the conference with what we vision to do in future.

This experience has been incredibly enriching and transformative for me. It has broadened my perspectives, deepened my understanding of global issues, and allowed me to connect with peers from diverse backgrounds. I truly appreciate the support and encouragement you provided throughout this journey.

Thank you to Aishwarya ma'am for introducing me to such an event and Thank you Anvita ma'am for believing in me and for giving me this chance to grow both personally and academically. School's dedication to fostering such opportunities is truly commendable, and I am grateful for the impact it had on my development.

## **Model UNESCO BRIDGE ACROSS ASIA CONFERENCE**

**P. G.**

Seven students were selected all over India to attend the recent 2-month bridge across Asia conference for the Asia Pacific region conducted by Kobe University of Japan at Tokyo, Japan. Members of the other countries were supposed to join the conference online. This was also attended by students of Japan, Mongolia, Thailand and Republic of Korea so that the total number of participants were more than 55.

The first two days were assigned to make students relaxed and talk to each other without hesitation and it was made sure by Ms. Shihoko that all the students mingle well with each other.

This conference featured presentations by two eminent guest speakers Mr. Shaun Mackay and Ms. Jun Morohashi on topics like archaeology and sustainable development both in concern for preserving the cultural world heritage sites of the world.

Hour long presentations were to be made to introduce each nation's culture and tradition followed by an interactive discussion on the concerned topic, which was the most beneficial part of the conference. The important part of the conference was formulating

policies for the conservation of the cultural world heritage sites which was then passed by the chair through agglomeration. Commendable job was done by the young students of Kobe university in efficiently managing the main workshop for dialogue and the actual conference. The rules were also specified and were explained in such a way that everybody caught hold of it. Such an intellectual-gathering of the chair and the facilitators generated the necessary enthusiasm among the students so they asked the maximum questions regarding the topic. No doubt, the conference was highly beneficial in developing our personalities, making new friends and improving our communication skills. The major takeaway from the conference was collaborative teamwork along with respecting other's point of view.

### **Reflection on Participating in the UNESCO BAAC Program**

**H. J.**

Through my participation in the UNESCO BAAC program, I gained a deeper understanding of the importance of international cooperation in solving global issues. Discussing topics such as sustainable development and peacebuilding with students from different countries was an incredibly meaningful experience. We analyzed problems from various perspectives and worked together to find solutions, which taught me the value of collaboration beyond borders.

One of the key insights I gained from this program was realizing that digital marketing can be a powerful tool in addressing social problems. With its ability to quickly spread information to a wide audience, digital marketing can effectively raise awareness and inspire action on issues like environmental protection and human rights. By combining the global cooperation I learned about in this program with the power of digital marketing, I now see how we can bring about real social change.

This experience showed me that digital technology can go beyond mere communication and be a direct force in solving social challenges. I am eager to continue using what I've learned to contribute to a better society in the future

### **Final Report**

**Y. J.**

Participating in BRIDGE Across Asia Conference 2024 was an amazing experience for me to improve my English skill and to learn about different cultures. During this program, I have done many activities, such as sharing my cultures with other students, hearing lectures from the guest speakers, and preparing and participating in the Model Unesco.

Presenting my culture to other students and learning other countries' culture was very interesting. When I presented Korea's culture to other students, I was able to represent my country and proudly talk about my homeland. During the Q & A session, a handful of questions from students in Japan, India, Mongolia, and Thailand made me think about how students from other countries view Korea. Also, while other participants shared their cultures at the session, I was able to see some similarities and differences between various cultures. Overall, I was able to learn about cultures of other countries and expand my tolerance to the global society.

From the lectures of guest speakers, I expanded my perspective of viewing the world. First lecture from Mr. Shaun Mackey taught us that there are many different views of seeing cultures, and that there are various ways to restore and preserve them. Second lecture from Ms. Jun Morohashi talked about education in different countries and how UNESCO is working hard to spread fair education throughout the world. Both lectures broaden my understanding of the world and helped me to rethink about the world I live in. I have become interested in other programs to improve global education systems.

Preparing for the Model Unesco, my partner and I searched for some of the factors that are causing dangers for the World Heritage Sites in Canada. We found out that Canada was facing some of the environmental issues, such as destruction caused by excessive physical extractions or mining, in their World Heritage Sites. After noting that Canada has been working to solve these problems by publishing legislations and participating in global acts, we suggested the idea of improving mineral efficiency and implementation of the education about the importance of preserving nature for the World Heritage Sites.

During the Model Unesco Session, we shared our ideas with other delegates. Hearing various opinions and points of view was interesting and I was amazed at how other delegates came up with their ideas. Working as a group to make a final statement was a complicated process, but sharing ideas with other students helped me to think deeply and logically.

To conclude, this program helped me to grow my ability as a global citizen and communicator. Collaborating with other students from the same or different countries helped me gain tolerance and problem-solving skills. Also, I learned that I shouldn't be afraid of expressing my opinions and ideas. For the future, I would like to participate in other global programs to solve many global issues.

### **Final Report**

**K. H.**

Participating in this conference has significantly deepened my understanding of the importance of preserving World Heritage sites. Before this experience, I didn't fully grasp the value of cultural preservation. However, after participating in the various activities, I now appreciate the profound impact that culture and heritage have on humanity. This program has provided me with valuable insights into how our shared history shapes our identities and connects us across borders.

One of the most rewarding aspects of this experience was the opportunity to interact with people from a diverse range of Eastern Asian countries. I had always been curious to learn more about how individuals from different cultural backgrounds view key issues like education and other important topics in our global society. The conversations I had during this program broadened my perspectives and enriched my understanding of the world.

This program has not only expanded my knowledge but also inspired me to adopt a more global mindset. Instead of seeing myself solely as a high school student from a rural part of Korea, I now feel more connected to the broader international community. It was truly an honor to participate in such a meaningful event, and I am grateful for the opportunity to grow both intellectually and personally through this experience.

Now that I have a deeper understanding of the significance of world heritage sites, I believe it is my responsibility to raise awareness among those who may not yet appreciate their importance. I am committed to advocating for the conservation of these invaluable sites and ensuring that my actions contribute to their protection and preservation for future generations.

### **Purpose and Result**

**V. N.**

The atmosphere during the UNESCO project meeting was inspiring. As a representative participating in the UNESCO model project, I felt extremely honored and delighted to be a part of this initiative. This project allowed me to develop my language skills—speaking, listening, reading, and writing. I had the opportunity to converse with international friends, learn about report writing, and gain a deeper understanding of countries across different continents.

Moreover, I learned about the criteria for becoming a World Heritage Site. The teachers



and participants made an effort to accommodate everyone's language skills, ensuring that those who were less confident in their language abilities did not feel uncomfortable. This was a truly wonderful aspect of the project and thank you so much teachers.

## **Final Report**

**A. A.**

The BRIDGE Across Asia 2024 online event took place from August 1 to September 14, 2024. This year's theme, "Securing Cultural World Heritage Sites for Future Generations" aimed to foster collaboration among participants from diverse backgrounds across Asia. The event included a variety of activities, workshops, and exchange interaction opportunities, all designed to promote intercultural understanding and sustainable practices to help secure cultural world heritage sites.

The event kicked off with a vibrant opening ceremony featuring presentations from participants representing each country. This session highlighted the importance of understanding cultural differences and set a positive tone for the workshops ahead. The presentations also showcased performances, visual arts, and culinary traditions from various Asian countries, celebrating the rich diversity of cultures and emphasizing the importance of preserving cultural heritage while pursuing sustainability.

A series of interactive workshops were held, focusing on the conference theme while also including several exchange interaction sessions between pairs and groups. These exchange interaction sessions allowed participants to connect, share contacts, and form collaborations. Utilizing breakout rooms, participants engaged in small group discussions, enhancing personal connections that extended beyond the event. A special workshop featured lectures from guest speakers, introducing many new topics that sparked curiosity and encouraged further exploration.

Many participants, including myself, highlighted the value of sharing experiences and learning from one another. The workshops and discussions broke down barriers and built understanding. I appreciated the interactive format, which fostered a sense of community despite being online. This conference inspired participants to advocate for sustainable practices in their regions, reinforcing that collective action can lead to meaningful change.

BRIDGE Across Asia 2024 online successfully fostered intercultural dialogue and collaboration on securing cultural world heritage sites for future generations. The diverse activities and participant engagement built a strong sense of community and shared purpose. Moving forward, the connections made during this event will inspire ongoing collaborative efforts to preserve cultural heritage in Asia and beyond.

I extend my gratitude to all participants, speakers, and organizers who contributed to the success of this year's event.

## **Final Report on BRIDGE Across Asia Conference 2024**

**M. C.**

### Executive Summary

This report represents the culmination of BRIDGE Across Asia Conference (BAAC)

This campaign aimed to build strong international relationships. The main event was a Model United Nations (MUN) focused on world heritage. Participants from different countries discussed ways to protect important cultural sites, promoting global understanding and cooperation.

### Findings or Results

The campaign helped people from different countries understand each other better. The BAAC led to these key results:

1. Cultural Understanding: Participants gained a deeper understanding of the cultures of other countries.
2. Better Communication: People improved their skills in talking and working together.

### Conclusion

The campaign helped people from different countries connect and understand each other better. The MUN event raised awareness about world heritage and created ideas to protect it. In the end, the campaign built strong friendships and encouraged working together to save important cultural sites.

## **BRIDGE Across Asia Conference 2024 Final Report**

**S. L.**

### 1. Executive Summary

This report represents the culmination of BRIDGE Across Asia Conference (BAAC) and is primarily contained in self reflection and conclusion throughout the conference.

This conference focused mainly on Cultural World Heritage Sites which was portrayed by the Model Unesco event to build an international relationship within the participating countries ; Japan, India, Mongolia, Korea and Thailand throughout the cultural exchange program.

### Findings or Results

The conference has built a strong international relationship which allowed the participants to exchange one's cultures and better global understanding. The BAAC led to these key results:

**Cultural Exchange:** Participants are able to connect and exchange their cultures to other participating countries, allowing them to gain a better understanding in the diversity of other cultures.

**New Opportunity:** This conference not only allowed the participants to exchange their cultures and ideas on world heritage, but also gave them the opportunity to see and communicate with people from different countries using English.

### Conclusion

The conference allows the participants, who are students from diverse countries to connect, better understand and exchange their thoughts on world heritage through the Model Unesco and other activities during the program. Overall, this conference has built a strong international relationship and given the participants the opportunity to connect with the world.

## **Final Report on BRIDGE Across Asia Conference 2024**

**T. S.**

This report represents for BRIDGE Across Asia Conference (BAAC). This program aimed at international communication. Also, focused on the World's Heritage sites for each country in the world.

Participating countries in this program included of Japan, Mongolia, Korea, India, and Thailand. All participants discussed and connected together to more understand each other.

The program helped the participants to understand more about the other countries and to accept the different cultures which is an important thing to live together as a human.

From this program led to

1. Relationship with other countries: communicate with different countries
2. think more about World's Heritage Sites: discussed together to know how other participants think and to find the way to solve the problems
3. Improving social skill and communicate in English: By talking and working with the other.

The program made the participants more understanding about each country including their cultures. And helps to prevent the World's Heritage Sites by making the discussion and awareness.

Also this program makes connections and friendships between the countries which is important to make the program successful.

### **Final Report**

**A. A.**

This report outlines my experience during the BRIDGE Across Asia conference 2024, which I attended in 2024. The program offered valuable insights and hands-on learning opportunities that enhanced my knowledge in culture.

Throughout the program, I participated in various activities that contributed significantly to my understanding of culture. These included group discussions, cultural exchange sessions, and interactive workshops on traditional arts and customs. I particularly enjoyed the cultural exchange session, where participants from different countries shared their unique traditions, food, and festivals. This activity allowed me to gain firsthand insight into the diverse cultural practices of Asia, and it was particularly beneficial because it fostered meaningful connections and expanded my global perspective. I found it insightful to learn how different cultures celebrate common human experiences in unique ways.

In conclusion, the program was a rewarding experience that broadened my perspectives and equipped me with new skills and knowledge in culture. I am grateful for the opportunity to participate and look forward to applying what I have learned in the future.

### **FINAL REPORT**

**A. B.**

Attending the ACCU 2024 conference was a truly transformative experience. Not only did I gain invaluable insights into pressing global issues such as climate change and the challenges and opportunities surrounding world heritage sites, but I also had the privilege of forging lifelong friendships.

Through various sessions, I learned about the efforts UNESCO undertakes to safeguard cultural and natural heritage sites worldwide. These efforts, while ambitious, come with their own set of advantages and challenges, such as balancing preservation with sustainable development.

Overall, ACCU provided me with both personal growth and a deeper understanding of global preservation efforts, leaving me inspired to contribute to protecting our shared heritage.

### **Final Report**

**M. B.**

First of all, I want to start this report with a thank you to the organizers who put their whole heart into this conference. It was a great conference where I learned many invaluable things such as; what world heritage is and why we should protect it, the importance of understanding different cultures, and connecting with diverse people who share the same values as you. Due to unfortunate inside problems I could not join the first few meetings, but thanks to my teammates and peers I was able to catch up and enjoy the last few conferences where I made the most of it. It was truly an eye-opening, fascinating experience. Thank you again to the whole BAAC team.

## Final Report

E. A.

The UNESCO conference on World Heritage Sites highlighted the urgent need to protect our world's most important cultural and natural landmarks. These sites are not just remnants of the past but living symbols of our shared heritage. They hold immense value for preserving history, biodiversity, and fostering sustainable tourism.

One of the biggest challenges discussed was the severe impact of climate change, which is rapidly damaging many of these sites. Urban development and pollution were also identified as major threats, particularly as cities expand and tourism increases. Participants emphasized that we must act quickly to protect these sites before they are lost forever.

Delegates shared inspiring case studies on how they are addressing these challenges, with many focusing on involving local communities and adopting sustainable management practices. It was clear that the only way forward is through stronger international cooperation, increased funding for conservation, and a deeper commitment to educating younger generations about the importance of these sites.

Lastly, attending this conference was truly eye-opening! The passion of the participants from all corners of Asia was overwhelming, and I felt inspired by their commitment to preserving our heritage. It was clear that protecting these sites is not just a responsibility for governments or experts—it's something we all have a role in. I left the conference feeling more aware of the urgent need for action and motivated to do my part in advocating for the protection of these invaluable treasures!

### 3. 参加者のその後

4 回目の実施となった今年度は、本プログラムがどのように参加者のその後の活動に影響を与えているのかを調査するため、今年度の参加者及び過去の参加者へのアンケート調査を実施した。プログラム前後の自身の変化や、プログラム終了後も活発に活動する参加者の様子を一部紹介する。

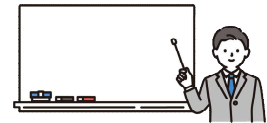
2024 年度参加 Y.K.さん

#### プログラムに参加して

今までアジアの他の国の同じ世代の人と交流する機会がなかったため、このプログラムに参加することで、各国の参加者と交流し、様々な考えに触れて視野を広げたいと思い、応募しました。他の参加者の方からたくさんの刺激をもらい、社会や自分自身に対する考え方や価値観が変わりました。また、各国の高校生と活動する中で、今後の自分自身の取り組みにおけたモチベーションが高まりました。

#### 第 16 回ユネスコスクール全国大会分科会にて発表・ディスカッションのファシリテーション

分科会では国内外の多様性との共生や、共生にむかって私たちにできることを参加者の中学生・高校生と考えました。私は、ディスカッション前に「共生とは何か」を考える導入部分の発表をしたのですが、発表準備の過程で「共生」に含まれる色々な意味や価値観に気づくことができ、とても勉強になりました。また、国内外に存在する多様性や「共生」に関する状況をより身近に捉えるきっかけになったと思います。グループディスカッションでは、参加者の方と同じ目線で「共生において私たちに何ができるのか」を考えたことや、お互いの考えを共有し合い議論するプロセスがとても刺激的で、たくさんのことを吸収できる有意義な時間となりました。私が通っている高校では、授業でプレゼンをする機会が多くあります。これまでの自分自身の学びを生かして参加することができ、とても良い経験になりました。登壇する経験自体も自分自身の成長につながったと感じます。



※分科会について：2024 年 11 月に第 3 回ユネスコウィークの一環で開催されたユネスコスクール全国大会において、「集まれ!ユース!! -共生社会の実現に向けた生徒向けワークショップ-」と題した分科会が行われた。Y.K.さんは他校の高校生と協力して登壇し、全国から集まったユースと共に国内外の多様性について考える議論を促進した。

#### 今後の目標

社会貢献につながる活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。例えば地域の異なる世代の方を集めた交流会の企画・運営など、人と人をつなぐ取り組みや、何かの手助けになるような活動ができたらいいなと思います。

2023 年度参加 T. M.さん

BAAC での経験を通して、興味のあることはとことん挑戦してみよう!という探究心・フットワークの軽さが自分の強みになりました。参加前は、国際社会に対してアバウトに興味があっただけでした。しかし、プログラム中、アジアの高校生と話す中で、アジアの国々に興味を持ちました。参加後もっと海外の人と交流したいと思い、地域の日本語教室にボランティアで参加し、在日外国人の子どもたちと交流しています。そこでは、「在日外国人も暮らしやすい地域社会づくりに携わる」という、自分が将来やりたいことを見つけるきっかけになりました。



#### 2023 年度参加 Y. M.さん

BAAC への参加をきっかけに、より一層社会問題への関心が大きくなりました。以前から興味を持っていた、日本の相対的貧困への解決策としてのこども食堂に関して探究を進め、こども食堂に関する取り組みを立ち上げることを考えています。社会のことや自分のことなど、さまざまな気づきを得ることができ、より一層、新しいことに積極的に挑戦するようになりました。

#### 2023 年度参加 U.S.さん

プログラム参加前は自分の意見を持っていても発言できませんでした。しかしプログラム中、他国の同じ高校生が前のめりになって発言しているのをみて刺激を受けプログラム中勇気を出して発言し、日常生活でも自分の意見を言うことができるようになりました。



#### 2022 年度参加 I. D.さん

プログラムに参加してから、人々が無意識に抱いている“アンコンシャス・バイアス”に興味を持ちはじめました。大学では心理学の授業を選択し、バイアスに対しても理解を深めているところです。ペアだったインドの子とは、現在も Instagram や Snapchat を通して、お互いの写真を送り合ったりメッセージのやり取りをしたりしています。



#### 2022 年度参加 Y. K.さん

プログラムで知り合った人達と今も SNS などでは繋がりが残り、国際的な関わりを持ち続けていることが嬉しいです。また、答えのない問題について考える力も、プログラム参加前と比べて深められたと思います。参加者同士は Instagram でつながっていて、投稿やストーリーを通じてお互いのことやそれぞれの国の文化を知ることができています。また、ペア活動をした相手とはお互いにプレゼントを贈りあったりメッセージのやり取りをしたりしています。

過去の参加者への詳しいインタビュー記事は ACCU News 420 号にも掲載しています。

▶右の QR コードからぜひご覧ください。



## 4. プログラム協力機関・協賛企業

### 1. 主催機関

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

### 2. 協力機関・協力者

モンゴルユネスコ国内委員会

韓国ユネスコ国内委員会

タイユネスコ国内委員会

インド環境教育センター

神戸市外国語大学

ユネスコ本部 持続可能な開発のための教育 (ESD) 課  
課長 諸橋淳氏

ACCU 奈良事務所 国際協力課  
課長 ショーン・イアン・マッキー氏

### 3. 協賛いただいた企業・法人の皆様 (順不同)

株式会社講談社

株式会社ナガセ

株式会社日本入試センター

株式会社ファーストリテイリング

一般財団法人 TOPPAN 三幸会

ブリタニカ・ジャパン株式会社



## 5. 資料編

### 1. プログラムスケジュール

開催日時(日本時間)・開催場所	内容
8月1日(木) 13:30~17:30 (全員オンライン参加)	開会式・交流会 ★自分自身を知る・向き合う、他者を知る、世界について知る・出会う ○各国文化紹介・ペア交流
8月2日(金) 14:30~17:30 (全員オンライン参加)	第1回対話型ワークショップ ★自分自身を知る・向き合う、他者を知る(対話) ○教育に関するグループディスカッション「私の学校生活」 ○世界遺産に関するグループディスカッション「自身の宝物」、「世界遺産登録がもたらす意味」
8月5日(月) 14:30~17:00 (全員オンライン参加)	第2回対話型ワークショップ ★世界について知る・出会う(文化遺産・ESDに関する知識、キャリア教育) ○ゲストスピーカー講義① ACCU 奈良事務所 国際協力課 課長 ショーン・イアン・マッキー氏 ○ゲストスピーカー講義② ユネスコ本部 持続可能な開発のための教育(ESD)課 課長 諸橋淳氏
8月6日(火) 14:30~17:00 (全員オンライン参加)	第3回対話型ワークショップ ★世界について知る・出会う ○Model UNESCO 演習(概要説明、体験セッション) 神戸市外国語大学学生によるファシリテーション
9月8日(日) 12:00~19:00 (全員オンライン参加)	Model UNESCO テーマ:「世界遺産保護」 神戸市外国語大学学生によるファシリテーション
9月14日(土) 13:00~15:30 (日本参加者:東京会場から参加、 海外参加者:オンライン参加)	閉会式・リフレクション(振り返り)

### 2. 参加資格

- (1) 日本の高等学校に在籍していること
- (2) 全てのプログラムに積極的に責任感をもって参加できること
- (3) 英語でアジアの高校生とコミュニケーションが積極的に取れること
- (4) オンライン交流に必要な機材を用意でき、十分なインターネット環境があり、かつパソコンやアプリケーションの操作ができること
- (5) 参加について在籍する高校の校長許可を得ていること

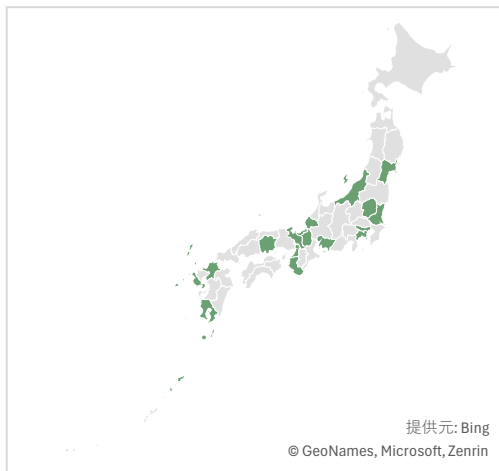
### 3. 参加人数

合計 56 名

- 日本の高校生 28 名：書類選考により ACCU が選抜
- モンゴルの高校生 7 名：モンゴルユネスコ国内委員会からの推薦
- 韓国の高校生 7 名：韓国ユネスコ国内委員会からの推薦
- タイの高校生 7 名：タイユネスコ国内委員会からの推薦
- インドの高校生 7 名：インド環境教育センターからの推薦

### 4. 参加者情報

・日本の高校生の参加都道府県：



東北地方：宮城県

関東地方：茨城県、栃木県、東京都、神奈川県

中部地方：新潟県、福井県、愛知県

関西地方：滋賀県、京都府、大阪府、和歌山県

中国地方：岡山県

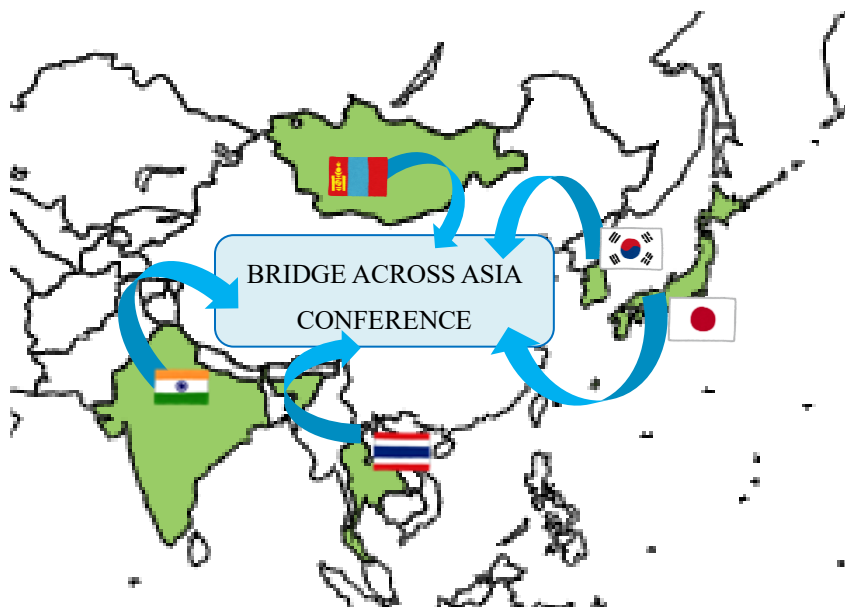
九州地方：福岡県、長崎県、鹿児島県

・モンゴルの高校生の参加地域：ウランバートル、オルホン県

・韓国の高校生の参加地域：ソウル、江原道、慶尚南道、忠清南道

・タイの高校生の参加地域：バンコク、ロッブリー県、ウボンラーチャターニー県

・インドの高校生の参加地域：デリー、グジャラート州、テランガーナ州、ウッタル プラデーシュ州



2024 年度アジア太平洋青少年相互理解推進プログラム  
BRIDGE Across Asia 国際協働学習事業  
実施報告書

2025 年 3 月

編集・発行 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 1-32-7F 出版クラブビル

電話 (03)5577-2853

Email [exchange@accu.or.jp](mailto:exchange@accu.or.jp)

URL <https://www.accu.or.jp>

©2025 Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO(ACCU)



# **BRIDGE Across Asia**

## **Conference 2024**